

超少子化・高齢化社会におけるダブルケア（育児と介護の同時進行を中心としたケアの複合化・多重化）問題の発見

横浜国立大学提供
作成日 2016年2月25日
更新日



研究者氏名
そうま なおこ
相馬 直子

所属機関
横浜国立大学大学院
国際社会科学研究院

関連キーワード(複数可)
ダブルケア、ケアの複合化・多重化、東アジア、社会的リスク、ジェンダー、世代間連関、国際共同研究

主な研究テーマ
・東アジアの社会的リスクとしてのダブルケア(ケアの複合化・多重化)の研究

主な採択課題
・基盤研究(B)平成24～26年度(配分総額:15,600千円)
課題名「東アジアにおける介護と育児のダブルケア負担に関するケアレジーム比較分析」
・基盤研究(B)平成21～23年度(配分総額:14,170千円)
課題名「東アジア地域連携におけるケアレジームの比較ジェンダー分析:社会的ケアの現代的諸相」

① 科研費による研究成果

・英国ブリストル大学山下順子氏らとの国際共同研究により、超少子化と高齢化が同時進行する日本や東アジアでは「ダブルケア」(育児や介護の同時進行をはじめとした、ケアの複合化・多重化)リスクの増大が予測される。

・介護・子育ての縦割り制度のはざまに、ダブルケアラーの孤立や困難な実態がある。30代では、ダブルケア予備軍も含めると、27.1%と4人に1人が、ダブルケアが自分の事となっている。負担が複合的であり、世帯構成、就業の有無、親の介護度、子育ての状況等、様々なダブルケアパターンを示した。

・「ダブルケア」とは、世代間のケアの連関のあり方から、その複合的な責任・負担・ニーズのあり方(構造)と課題をとらえる一つの切り口である。この「ダブルケア」を、複数の課題や主体を引き寄せる「磁石」としてとらえ、「自治型・包摂型・多世代型地域ケアシステム」(*1)構築へのソーシャルイノベーションのダイナミズム分析から、変革の可能性と課題を提示した。

*1「地域住民(ダブルケア当事者)による状況とニーズの定義に基づいた、子育て、介護、貧困などの領域を横断して、包摂的に、多世代にまたがるケア関係を射程にのびたケアシステム」

② 当初予想していなかった意外な展開

・メディアでダブルケアが取り上げられ、社会的関心を喚起(NHK あさいち、各種新聞や雑誌)

・地域貢献活動として、横浜市・市民団体と連携し、ダブルケア当事者の座談会、シンポジウム、討論会を積極的に開催。

・国会予算委員会発言(<http://www.yakushiji.info/blog/archives/1373>)、政府の男女共同参画会議の「男女共同参画・女性活躍の推進に向けた重点取組事項について」(2015年6月)でダブルケアの概念が政府文書に入り、国の実態調査実施をうながした。



ダブルケアとは… 家族の中にある複数のケア(介護と子育ての同時進行)



③ 今後期待される波及効果、社会への還元など

・横浜市政策局調査季報(研究協定にもとづく共同研究結果)、介護と育児(狭義)を超えた「ケアの複合化・多重化」の実態把握(第6弾調査)の発信、一般向けの新書(今夏出版予定)、ダブルケアサポーター養成講座のテキストブック出版、研修プログラムの全国展開により、ダブルケアの社会的認知度がひろがり、その対応が広まることが期待される。

